

集落支援員だより

第13号

発行者 東和地域集落支援員

連絡先 66-2490

発行日 令和2年6月25日(木)



地域を想う

今回は、戸沢十二区の五十嵐伝一さんにひと言いただきました。



戸沢十二区
五十嵐 伝一さん

温故知新

(故きを温ねて新しきを知る)

私たちの集落、戸沢十二区は、集落運営の基本的な考え方として常に「温故知新」の考えで様々な運営しております。まず、年間行事から紹介したいと思います。

一月 「新春の集い」・・・

年の初めの集落民の顔合わせなので、集落民全員が参加する事を基本としております。つまり、新年会ですと「忌掛かり」などで不参加が出ない様に、所謂、「松の内」が明けた毎年一月第二日曜日を定日としています。当日の午前中は、「熊野谷どんと焼き」で、今年一年の集

落民の安寧を願うての炎で年の初めの行事スタートです。集いのメインイベントが「紙神相撲熊野谷場所」といって、新聞紙一枚での勝負事です。

二月 「集落懇談会」・・・

集落民全体(サロンとの共催)で毎年二月第四日曜日に、船引町「花の湯」にて恒例の懇親会です。

三月 「集落総会時の話し合い」・・・

総会終了後の懇親会時に「今後の集落の在り方」などについて、忌憚のない意見交換ができ、時には「エキサイティングゲーム」もあつたりなかつたり・・・。

五月 「集落の道普請と花見会」・・・

県道(原町・二本松線)、市道(熊野谷線等)の側溝の土砂上げ、ガードレールの清掃・カーブミラーの視認と清掃です。なお、道端の草刈り作業は「戸沢十二区集落道綺麗に仕隊」(隊員十名)で担当しております。(詳細後述)

六月 「八幡神社夏越の大祓茅の輪くぐり」「クリーンアップ作戦(河川掃除く大沢川)」・・・

集落民挙つてこの先の「暑さ」に負けず達者に暮らせるよう願うての神事です(通称：病気を祈祷)。

十月 「集落パークゴルフ大会」・・・

会」・・・

今年は第六回ですが、集落民はもとより、他出している子や孫たちも参加して楽しい一日でした。プレイ中や反省会の中でも集落づくりなどについての話し合いがされています。

十二月 「集落シンポジウム大会」・・・

今年は第五回です。集会所の卓球室での恒例の行事です。試合終了後には、恒例「集落忘年会」で一年の行事を閉めます。

以上、我が集落の年中行事を紹介してきました。集落の維持・活性化は「何だ?」と常に考えておりますが、我が集落での結論は「集まり」が昔より少なくなった事が原因では、この結論に達し、前述したような「集まり」を実施しております。また、必ず「集まり」の度に、今後の集落の在り方などについての話し合いは常に真剣に行なっております。

次に、前述しました集落内の道端草刈り作業については、「戸沢十二区集落道綺麗に仕隊」を平成十八年度に中山勉(千葉県より移住隊長以下十名で組織(平均年齢六十八歳)、隊員が夫々の持ち場を時間のある時に常に「草丈を八センチ以下」に管理し、「狭い道も広く使う」工夫で集落内の交通安全と環境

美化に貢献していただいています(勿論奉仕作業)。

さて、みだしについて前置きが長くなりましたが、我が集落の掟なるものがあります。

それは、次のことを「合言葉」にしています。

- 一つ 「集落運営は温故知新」
- 二つ 「継続は力」
- 三つ 「我が集落は我々の手で

今後ますます疲弊する集落の維持・活性化に集落民一同鋭意努力しております。

また、集落民の寄り合い処「集会所」は、旧北戸沢小学校熊野谷分教室を使っておりますが、実は、平成二十八年から三十年までの三九年かけて集落民の出役で集会所を明治中期に建設された当時の姿に再現することが出来ました。

この事業は、市の「市民との協働」による地域づくり支援事業の補助支援で実施したものです。壁は漆喰窓は木枠と昔の学校の姿です。(こちらは次回以降で詳細をご紹介します)

当事業の「ねらい」は現代新しい物は金とやる気があれば容易にできますが、古き歴史的建造物の保存

管理は非常に難しいと思います。

しかし、我々集落では敢えて挑戦しました。事業(工事)の殆どが集落民の労役で賄い完成させました。現在、当分教場で学んだ在校生は、百二名ほど全国で活躍されております。この方々に再現された昔ながらの分教場を紹介し、懐かしんで親に来る方々との話し合いなどで疲弊する集落の実態を理解して頂き、維持・活性化の一助になればと考えております。今後は、分教場で学んだ健在する在校生を招いてのイベントなどを通して集落の維持・活性化になればと考えております(都市との交流など)。

次に、現在の我が集落の課題と解決策の一端を述べて筆仕舞いとさせていただきます。

- 課題一 買い物弱者
- 課題二 独り暮らしの見守り
- 課題三 集落再編の研究

これらは、今後他集落でも懸念される課題です。既に問題化しております。

まず課題の一つ目、買い物弱者(高齢者、特に交通手段のない方々)の解決策ですが、買い物は「見て、触って、選んで、買う」これが買い物を楽しむでもあると思います。これらを満たしてくれるのは「移動販売」が一番かと思えます。今、話題の「移動スーパー」として丸

移動販売を期待したいものです。

課題の一つ目、「独り暮らしの見守り」ですが特に冬期間のみの「集合住宅化」して十一月から三月までの期間、集団生活してもらう事は如何なものでしょうか(ただし耐震性建造物であること)。

課題の一つ目、集落再編の研究については、私が集落支援員でお世話になったときに、各集落を巡回して感じたことと、どこの集落の皆さんも異口同音に「どうにかしないと将来(五年後・・・)は集落の運営ができなくなる・・・。」との声を多く聴き、種々検討したり我が集落で話し合ったりしました。しかし、難しい問題である感が正直なところでした。皆さん「総論賛成・各論反対」です。ただ、今後人口減少・高齢化の進展と同時に、市町合併と財政悪化などにより以前のような一集落単位での細やかな対応がむずかしくなっていること、できなくなっていることが現実です。

再編にあたっての考察

昔は、大字単位の地域活動、PTA活動つまり旧小学校学区の纏まりが主流を占めていたと思います。「歴史は繰り返す」ではありませんが、「旧小学校区」単位での再編(合併)もあっても良いのではと考え研究したいと思えます。

最後に集落の維持・活性化の最たるものは、「いきいきサロン」の活性化が一番かと思えます。因みに我が十二区集落は全戸全員がサロン会員で活動しています。

地域で頑張っている方を紹介!

パン屋3ポケット

最近、日本の食文化に変化が見られ、海外でも日本の和食が人気となつていくようです。その一方で若者の間では朝食抜きでの生活といった話も聞かれます。

我々子供の頃から学校や親から体づくりには朝食は大事だからといわれ朝食必ず取るようにと教育されたものでした。

また、今食文化にも欧米化が進み、木漏れ日のなか朝食にはパンとコーヒーといった優雅な食事をしている人の話も多く聞かれます。

そういった中、国内では、コメの消費も落ち込んでいる現在、コメの消費拡大に貢献することを目的に、米粉パンづくりに励んでいる方がいます。

太田深田集落の菅野千栄子さんです。



▲パン屋3ポケット 菅野 千栄子さん

菅野さんは、とにかくパンをこよなく愛し、平成二十八年暮れごろから試行錯誤を繰り返してパンづくりに没頭され現在に至っています。

菅野さんが米粉パンづくりに大切にしていることは、お湯で捏ねること、発酵の時間にこだわっていること(企業秘密)、そして、原料(米粉は純国産のものを使うこと)だそうです。今、感染症(新型コロナウイルス)の影響でパンづくりに欠かせないイースト菌の入手が困難になっているようで、今後のパンづくりに影響があるのではないかと心配していました。

また、米粉パンの難点といえば、買い置きしておけば、次の日には少々硬くなる傾向にあるので、その日のうちに食するのが一番のようです。道の駅ふくしま東和等にて販売をされているので、ぜひ一度、手に取って食してみたいかがでしようか。

とにかく好きで始めたパンづくり、これからも地域の皆さんに美味しいと言われるパンづくりにしていきます、と語っていました。

ふわふわの米粉パン!
とても美味しかったです!!
翌日食べるときは、20秒ほどレンジでチンすると美味しく頂けるようです。

〈お問い合わせ先〉
「パン屋3ポケット」
電話 080-6007-4351
菅野(すげの) 千栄子 まで